

# 銀杏坂

～ 輝く薩摩中央 ～

令和2年5月28日（木） 南日本新聞

本校の生物生産科果樹班が育てたナシ苗木の地元生産者への引き渡しの記事が、南日本新聞に掲載されましたので紹介します。

## ナシ苗木、農家へ提供

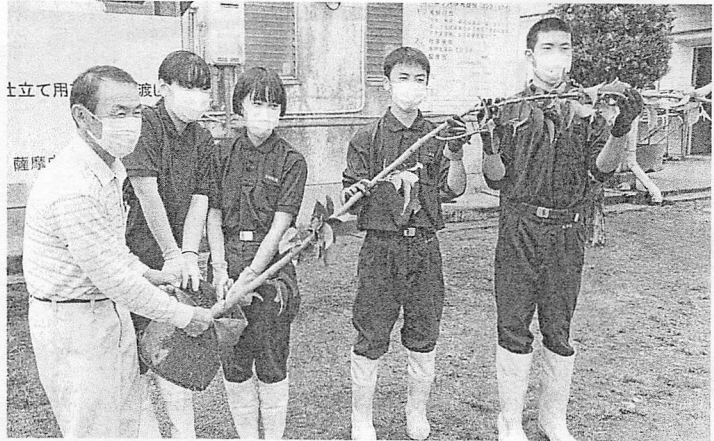
### 薩摩中央高 新栽培技術に対応

さつま町の薩摩中央高校の生徒が、ナシの新しい栽培技術用の苗木を育成し、27日、地元生産者へ初めて引き渡した。今後も授業の一環で苗木を供給し、産地活性化や生産者の負担軽減につなげたいとしている。

隣に植えた苗木同士を接ぎ木して育てる。安定出荷できるまでの期間短縮や作業の効率化に向けて全国で導入が進むが、苗木育成には手間が掛かり、普及には生産者の負担軽減が課題となっていた。

同校は県内の高校で唯一ナシ園を持ち、同町ナシ振興会の藤田俊郎会長(69)の依頼を受けて2018年12月に育苗に着手。生物生産科果樹班の3年生が中心となり約1年半掛けて3畝ほどに育てた。今回は苗木50本を1本2千円で藤田会長に譲った。今後は育苗の早期化の研究も進める。

同町は霧島市に次いで県内2番目のナシ産



育てたナシの苗木を手渡す生徒  
＝27日、さつま町の薩摩中央高校

地。3年の市山晴菜さんは「今後20～30年、大切に育ててもらえたら」。この日のうちに約30本の苗木を植えた藤田会長は「本当に助かる。高齢化で生産者は減っており、苗木作りを通して生徒のナシ栽培への関心も高まれば」と期待している。  
(右田雄二)